

進捗状況の概要

①インストラクショナル・デザイナーを雇用し、教員の授業設計支援及びアクティブ・ラーニング支援を推進した。

・効果的・効率的アクティブ・ラーニングの開発・普及及び全学モジュール科目の科目担当教員の授業設計の支援等のFDを行った。

・学生向けのラーニング・ティップス（情報検索やレポート・ライティングなどに関する学習ヒント集）を作成し、ともに冊子体及びウェブ上で参照できるようにした。このウェブ上での活用に関しては、ティップスに関連した数種の動画コンテンツも作成し、初年次セミナーの担当教員（約150名）を主体的学修促進支援システムのコミュニティにユーザー登録することにより、教材及び授業展開方法の共有化を行い、今後のコンテンツ充実のための調査等も行っている。

・教員向けに、思考力育成に焦点をおいたティーチング・ティップス（授業づくりのヒント集）を作成し、冊子体及びウェブ上で参照できるようにした。冊子体に関しては、全学モジュール科目の科目担当教員、FD講習会参加者等に配布するなど、教育改善支援を行った。

・主体的学修促進支援システム（LACS）を有効に活用した授業事例を集めたLACS活用ガイドブックを作成し、冊子体及びウェブ上で参照できるようにした。

②学修成果の可視化に向けて、教養教育の到達目標に対応した間接的学修成果評価ツール（学生の自己評価等による指標）をパイロット的に使用するとともに、直接的学修成果評価ツール（実際の能力指標）としてとくに思考力のルーブリックを開発した。

・間接的学修評価ツール（学生の自己評価等による指標）をパイロット的に使用することで、ツール自体を改善するとともに、学修成果につながるアクティブ・ラーニングの工夫を提案できた。

・間接的学修評価ツール（実際の能力の指標）としてとくに思考力のルーブリックを開発することで、学生にはわかりやすく到達目標を提示でき、教員には具体的な授業設計指針を伝達できた。

③他大学とのベンチマーキングが可能な総括的評価の一環として、社会人基礎力テストを行った。

・1年次を対象とした社会人基礎力テスト（PROG）を行うことにより、アクティブ・ラーニング開始前の学生の汎用的能力を学部別に把握することができた。

・3年次を対象とした社会人基礎力テスト（PROG）を行うことにより、全学モジュール科目履修後の学生の汎用的能力を把握することができた。

④教学関連データの収集を行うとともに、同データを用いて、項目別のデータベースを作成した。

・年間を通して、継続して教学関連データの収集を行うとともに、同データを用いて、学修行動など項目別のデータベースを作成した。

・既存のデータベースの拡張を行い、各データベースを選択的に結合し、実験的分析を開始した。

⑤学生の学習行動や学習時間、能力に関する自己評価、満足度等の調査を目的とした「大学IRコンソーシアム」のアンケート調査を行った。

・1年次対象の調査は全学モジュール科目のなかで、また3年次対象の調査は各学部へ依頼して実施した。

・大学IRコンソーシアムの学生調査結果等、IR（Institutional Research）のデータをFDに活用している3大学（大阪府立大学、長崎大学、玉川大学）の事例報告（AP合同フォーラム）を行い、可視化した成果をFDにつなげていく方策について検討した。